

## 千年後の命を守る、いのちの石碑

宮城県の女川町は東日本大震災の津波で8割以上の家屋が流出し、死者・行方不明者は町人口の1割近い832人であった。震災の記録を残すため、女川中学校の生徒たちが計画し、保護者や地域住民も加わり、津波到達地点（町内の全浜21カ所）に石碑を建てている。



「いのちの石碑プロジェクト」の1つ、防災教育（土曜授業）が行われ、生徒、学校運営協議会委員、地域の方が参加しました。

●講話  
「女川いのちの石碑プロジェクト」  
阿部一彦さん  
（元女川中学校教諭）  
伊藤 唯さん  
（女川中学校卒業生）

オンラインで阿部さんと伊藤さんから、女川町の震災時の状況や震災後の子どもたちの環境、また、震災の記録を後世に伝え、命を守るため子どもたちが考え取り組んだ活動などを聞きました。

最後に阿部さんは、生徒たちに向け、「自分の思いを大人に伝えてください。大人は必ず応援してくれま

す。そして、自分ができるところをやってみてください」と話しました。

生徒会長の高久紘輝さんは、「困っている人がいたら、みんなで協力できる環境をつくり、未来の命を守っていききたい」と応えました。



## 防災のこと 災害のこと 命を守るため できることを地域みんなで考える

那須中央 土曜授業：防災教育・第3回学校運営協議会

9月12日、那須中央中学校で、町独自の新教科「NAISUタイム」の1つ、防災教育（土曜授業）が行われ、生徒、学校運営協議会委員、地域の方が参加しました。

●講話

「女川いのちの石碑プロジェクト」

阿部一彦さん

（元女川中学校教諭）

伊藤 唯さん

（女川中学校卒業生）

オンラインで阿部さんと伊藤さんから、女川町の震災時の状況や震災後の子どもたちの環境、また、震災の記録を後世に伝え、命を守るため子どもたちが考え取り組んだ活動などを聞きました。

●協議

「わたしたちができること」

各地区に分かれ、講話の内容を手掛かりに、災害に備えるため、また、災害が起こった時に、自分・家族・地域・町ができることを班ごとで話し合い、発表しました。

参加した学校運営協議会委員や地域の方からは、「日頃から地域でのあいさつや声の掛け合いが大切だと思った」「余笹川が那須水害で氾濫したことを学校からも生徒たちに伝えて欲しい」「中学生が地域で活躍できる場をつくりたい」との声が上がりました。



那須のいろんなおいしいものを、作る人の思いも一緒にご紹介。

No.21 古民家レストラン  
ファンタジア



ふっくら仕上げたハンバーグと香ばしい揚げ野菜に、玉ねぎの甘みがたっぷりなデミグラスソースは、これからの季節にぴったり



店内はノスタルジックな雰囲気



渡辺さんが手入れをする草花が店先を彩ります

オーナーの渡辺さんは、妻の生家である築100年以上の建物を改装して平成30年7月に「古民家レストランファンタジア」を開店。「20歳で渡辺家の養子になった時からこの建物を生かしたいと思っていた」と言います。

小学校4年生から、働く両親に代わり妹2人に夕食を作っていたという渡辺さん。「よく作ったのは卵と玉ねぎで作る卵丼。肉を腹いっぱい食べたいと思い料理人の道に進んだ」と振り返ります。

宇都宮、東京などの洋食店で修業後、19歳の時に知人に誘われ、国道

きれいに早くおいしく料理を出す



オーナーの渡辺芳春さん

4号線沿いにあった洋食店「ファンタジア」で働き始めます。当時の店長に「店を売ってください」と申し出て、念願の経営者となったのは25歳の時でした。

「子どもがおいしく言うものは間違いない」との思いから、店を一步出たあとの子どもたちの感想を、陰からそっと聞いていたことも。

きれいに早くおいしく料理を出すのが信条。一緒に厨房に入る妻の喜久代さんとは、あうんの呼吸で調理が進みます。「妻と一緒に、あと10年はやりたい」と力強く語っていました。

古民家レストラン  
ファンタジア  
住所 豊原丙232  
☎0287-72-5781  
営業時間 ランチ 11:00~14:30  
ディナー 17:00~21:00  
定休日 水曜日  
毎月第1・第3木曜日

